

●れんさい競作リレー漫画—⑰

# 猫じゃらし

「ねこ小僧次郎吉伝」

ラッキー植松



その昔  
江戸の町に  
ねこ小僧次郎吉  
という義賊が  
いた

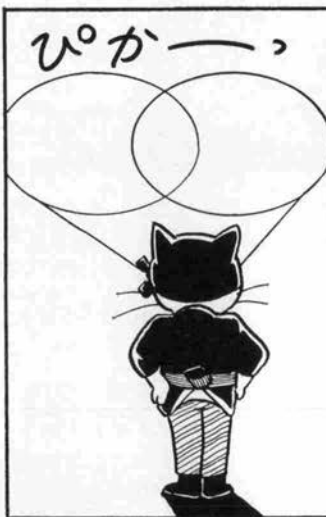
彼は  
生まれついでの  
盗みのテクニク  
を持っていたの  
である

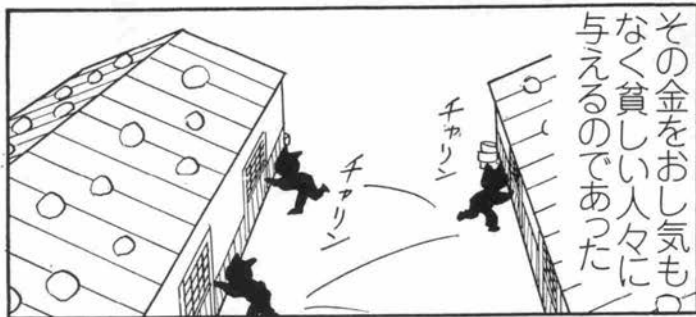


天性の  
忍び足



おまけに夜目の効くことといったら...









6月上旬より「新アサヒ劇場」ロ  
ドショー 一般1500円 高校生  
1300円

人のかわりに宇宙に飛ば  
された人工衛星で死んだラ  
イカ犬にくらべれば、どん  
な事が起っても自分は幸せ  
だと考える12歳の少年イン  
グマルのマイライフ。豊か  
なユーモアと繊細な演出に  
なによって、  
出だれもが  
想ひ心の奥に  
しまっている思春期の想い



## 音楽

- ★みなづき会コンサート  
6日(火) 13時 県民小劇場 1  
500円
- ★フェスビック神戸大会100日前行  
事、和波孝博ヴァイオリンリサイ  
タル  
7日(水) 18時30分 神戸文化大  
ホール 3000円
- ★第15回吹奏楽団「ポラス・ボルテ  
ー」定期演奏会  
10日(土) 18時30分 神戸文化大  
ホール 5000円
- ★第2回五十嵐芳芳・公開レッス  
ンとミニ・コンサート  
10日(土) 16時 生田文化会館大  
ホール 2000円
- ★24th・ALL JAPAN・DI  
TIVEL AND JAZZ・FES  
TIVAL  
11日(日) 11時 武庫川学院第3  
学舎・甲子園会館 3000円
- ★室内楽コンサート・シリーズⅢ  
「ピアノトリオ・コンサート」  
12日(月) 19時 芦屋ルナホール  
3000円
- ★ブラザース・フォア  
13日(火) 19時 明石市民会館大

出をゆさぶる名篇。  
★夢の祭り

6月上旬より「ロッポニカ三宮」ロ  
ドショー 一般1500円 高校生  
1300円



柴田 恭平

昭和初期  
の津軽が  
舞台。津  
軽三味線  
にとり憑  
かれた建  
吉は、秋祭りの三味線競争  
に隣村の勇造に負け、失意  
のうちに村を去る。恋人を  
も失った建吉だが、修業の

ホール 3000円

★第95回小さなコンサート「三  
人のコントラバス奏者の夕べ」  
20日(火) 19時 ビックロシアタ  
ー 2000円

★フランツ・リスト室内管弦楽団  
20日(火) 19時 伊丹市立文化会  
館 5000円

★デュオハヤシが贈るミュージア  
ム・ヴォー・トリオの夕べ  
23日(金) 19時 神戸市立博物館  
3000円



## 演劇

★宮本研進・新劇合同公演「夢  
・桃中軒牛右衛門の」  
22日(水) 15時 18時15分  
神戸文化会館 3450円

★文学座公演「チェンジング・  
ム」  
28日(水) 29日(木) 18時30分  
ビックロシアター 4000円



## 古典芸能

★もとまち寄席恋雅亭  
10日(土) 18時30分 元町風月堂  
ホール 1200円

旅で開眼し、再び勇造と対  
決する…。

熱烈な映画ファンである  
長部日出雄(直木賞作家)  
の第1回監督作品「スクリ  
ーンを通して芸の持つ魔性  
が表現される」。

★メジャーリーグ

6月上旬より「国際松竹」にてロ  
ドショー 一般1500円 大高生  
1300円

万年最下位候補のクリ  
ブランド・インディアンズ。  
大リーグ史上、最弱にして  
最低といわれたこのチーム  
に何と女性オーナー誕生。

★花柳秀十輝師30周年記念・と  
きの会  
11日(日) 10時30分 尼崎アルカ  
イックホール 4000円



## 映画

★市民映画劇場「サイレントボイ  
ス」  
15日(木) 18時30分 16日(金)  
18時30分 17日(土) 14時・16時  
15分・18時30分 シーガルホール  
一般1000円 会員800円



## 美術

★大丸美術画廊  
上尾忠生水彩画展 6/8 6/13  
青木龍山展 6/15 6/20  
旦紅会・日本画展 6/22 6/27  
★そころ美術画廊  
泉流山宮吉賀大層・符夫新作展  
第3回出石焼・四世永澤永信作陶  
展 6/14 6/19  
人間国宝・金城次郎新作展  
松任谷国子・千鶴展 6/21 6/26  
★海文堂ギャラリー  
6/28 7/3

ホームグラウンドをクリーブ  
ランからマイアミに移そう



トム・ベレンジャー  
と画策して  
いるオーナ  
ーは「最下  
位宣言」を  
した?!



チャーリー・シーン  
快バースポ  
ール・コメ  
ット

★それ以外の映画のチケットをブレ  
ゼント、希望映画名、住所、氏名、  
明記し、神戸っ子「映画招待ブレゼ  
ント」係

★ギヤラリーあじさい  
KOBESPECIAL画会創立展  
6/20 6/25

★県民アートギャラリー  
第2回ぐるーぶ・ゆう・ゆき  
6/12 6/17

玄心書道公募展  
ざっと・びとれい ゆぐるい展  
6/13 6/15 6/17 6/18 6/25

★せいでんラング  
現代欧米・アート展  
6/9 6/20

★ギヤラリーさんちか  
神戸ハッセルブラッド・フォトク  
ラフ展 6/11 6/16 6/20 6/23 6/27

あぶみの会作品展  
第15回こうべ芸文美術展  
6/15 6/16 6/18 6/20 6/22 6/23 6/27

ブーブー展  
★さんちかホール  
神戸の水道展  
喜久屋ビューティフル  
6/1 6/6 6/11 6/16 6/21 6/26

第15回こうべ芸文美術展  
「市民のグラフィック」  
6/22 6/27  
★神戸市立博物館  
金魚展  
5/27 6/2

# 淀川長治

映画評論家



クラシックよみがえる

デンマーク・スウェーデン映画  
『ペレ』を見つめて…

少年の頃、それは大正十年のころ、私は農民文学に読みふけた。おもての座敷の二階で、うちの芸子（うづきこ）が「勧進帳」の三味線のおさらいを繰り返しやっていたとき私はその三味のバチさばきの音色を聞きながら長塚節の「土」の農民文学に読みふけた。私が、いま谷崎文学と深沢七郎文学を同時に愛する（あいする）のはこの少年の育ちからではあるまいか。

いまデンマークとスウェーデン合作の「ペレ」（一九八七年作・二時間三〇分）を銀座の和光のうらのフランス映画社がよく使うこじんまりした豪華な試写室で見たところだ。いまから一〇〇年前の話でスウェーデンからデンマークのボンホルム島に出かせぎにきた人たち、というよりも食うに困った貧しい労働者たちのその群れにまじって九才のペレともう老人と言いたいペレの父親がスウェーデンからやって来て、雇い主を探すところから映画は始まってゆく。この親子は、パンにバターをぬることと、酒が気がねなく飲めること、その夢を求めてやって来たのだが、子持ちの老人など、雇い手はない。親子はその漁村（うしむら）の港の石だたみの上に立って抱き合う。

いまから一〇〇年前と言えば明治二十二年。ふと日本の労働者のブラジル行きその始まりの頃をも思う。

映画は食ってゆけぬ父と子が、どうやら雇い手を見つけ馬小舎に藁（わら）たばをベッドに、これがこれからの親子の

物語（ものがたり）。よれよれのしみだらけのシャツが痛ましい、このペレの老父（マックス・フォン・シドウ）が見事な演技を見せる。打ちひしがれて一杯の酒にありつくだけで、その一日をありがたがっているこのペレの父が、ペレを産んで五年目に死んだ妻のあとは、ずっとやもめを通して、いや、通すよりも後妻など貰うぜに（うらぐぜに）のあるわけもなく、いまもペレを抱きしめて眠りながら、死んだ妻のことが皮膚に思いを伝え、この老父はこの島の後家を心の奥で狙（ねら）ったりもした。ペレはやっと学校にゆく。「やい、スウェーデン野郎」と学校でいちめられる。私はデンマークがこのようにスウェーデンを馬鹿にしていることでびくびくした。映画というものは歴史や地理のペーじから生きた血と肉のなまの匂いを伝えてくれるものなのだ。それは教科書の活字では得られぬなまなましさがあるものなのだ。イギリスつ子がアイリッシュを馬鹿にしたことも映画で知ったがデンマークが明治時代にスウェーデンを馬鹿にしたことはまったく知らなかった。もっともこの映画はスウェーデンの貧農が食うに困ってデンマークの小さな島に出かせぎに来たということで、その出かせぎ者を馬鹿にしたのかもわからぬが、馬鹿にされたペレが「死んでやる、おまえら見ておれ」と学校の仲間たちの目のまえで、氷の海（こりのうみ）の中へザブザブと這入って少年たちを啞然（ごぜん）とさすシーンのその氷がいったい浮い



ている海の水のその冷たさが見事なカメラ（ノイエリ  
エ・ベルション）で映画ならではの実感を出した。

デンマークの小さな島のその島に住む人たちの生活  
が、ときになまぐさく、セクシイに、ときに貧者には冷  
酷なる目で見つめた古き時代のその村びとのスケッチ  
に、この映画は悲しい貧しいその父と子を見せて、思わ  
ず「木靴の樹」を思い出させたが、あの映画では貧しく  
て靴も買えぬ小学生のわが子に父が夜を明かして木をけ  
ずり靴を作ってやるというクライマックスがあったが、  
この「ペレ」は二時間三〇分、クライマックスというも  
のを持っていないのが心にひかかり、それが二時間三  
〇分、いっさい画面から目を離させぬだけの力を持って  
いることで、この映画の監督のビレ・アウグストの演出  
スタイルに注目した。こ

の監督は一九四八年デン  
マーク生れだから今年ま  
だ四十一歳である。それ  
なのにこの老大家振りは  
おそろしい。しかし初め  
に述べたペレが氷の浮い  
た水にズブズブと這いり  
込むシーンひとつを見て  
も実にその感覚はするど  
く、この監督が記録映画  
あがりのことで「目で見  
る映画」の積神を身にし  
みこませていることがわ  
かるのだった。一九七八  
年から短篇をとり「ペレ」  
はこの監督が劇場用の映  
画を一九八三年に初めて  
とってからまだ四本目と  
知った。そうであろうま  
だ四十一歳なんものだ。



けれども短篇とかテレビ映画などは既に十本以上もと  
っており映画というものをすっかり身につけていること  
で実にたのしい監督だ。

私はこの映画の老父に扮したマックス・フォン・シド  
ウの名演にひざのりだったが、一九八七年度のアカデミ  
イ賞ノミネイトでマックスの名が上がりながら、入賞  
（主演男優賞）が「レインマン」の Hoffman だったこと  
で意外とさえ思えたほどだった。

デンマークは活動写真が誕生した初期アメリカ、フラ  
ンス、イタリア、ドイツとならんでその製作は盛んであ  
り、大正初期、私は小学二年生のころ、早くもデンマー  
ク映画、そのノルジス会社のマーク（白熊）まで覚えて  
いたのであった。デンマークといえはあの名監督のドラ  
イエルもデンマークそしてついこのあいだの「バベットの  
晩餐会」もデンマーク。再びこの国の土の香りをしみこ  
ませた農民映画「ペレ」を見て逆に今の豪華な都会感覚映  
画のなかでのこの大クラシックに、モダンをさえ受けた。

びっと・いん



★洋菓子天国 KOBE 展★

居留地文化からの贈り物、村上和子さんが選んだ洋菓子神戸の神様達23名の作品が揃いも揃った。

5月3日〜7日までの5日間、大丸神戸店7階で催された。「Chateau」、「母の日」、「春風駘蕩」等本当にお菓子なの!と感心至極の精巧な作品や「KOBEL」等、許されるなら一口試食したい位おいしそうな作品群は、居留地文化というハイカラな文化を上手く育んできた神戸ならではのものと見える。F・ビゴ氏、F・モロゾフ氏等、洋菓子の神様達の技は5万3000人以上の洋菓子天使達を大満足させた。



一口味わいたいお菓子。

★神戸風新イタリア料理を

洗練された大人の雰囲気と本格的な味のプロワイロが6月で一周年を迎える。明石の海の幸、神戸ビーフ、と選りすぐった材料



福田シェフ(左)が心をこめて作ります。

を使って福田シェフによって作り出される料理は、イタリアにこだわらず日本の四季にあわせて好評とか。

一周年記念のメニューは6月15日(17日の3日間)で七千、八千円(税別)の2コース。ウナギなど初夏ならではの味覚を使った極めつけのコース料理、シェフ手書きのメニュー、プロワイロオリジナルワインディング内容的にもお得なこの機会をお見逃しなく。

■中央区加納町2-5-11 布引ビルB1F。電話261-2620  
11:30〜14:30 17:00〜22:30  
★アットホームな

杉鮪の味空間

阪神元町駅を南へ。元町三丁目との間にある道を西へ少し行くと、山側に日国ビル。夕暮れ時、その地下にある「杉鮪」へ入ると、

カウンターは常連さんで満員だ。杉のお兄ちゃんこと上川重樹さんが、美味しそうな童顔で「いらっしやい!」「うちは、家の台所で毎日食べてるような気分で、魚料理や、お鮪を食べられるからエエネ。その上、安いから毎晩でもOKや」とコンビの山下のお姉ちゃん、のサービスは、常連さんの顔を見てお酒の量も加減する。「ここのお巻きは名物や」とお隣りさん。初めてのお客もいつの間にかおなじみになってしまう。



美味しそうな上川重樹(右)さん

★メキシカン風味を、

今年四月二十二日(土)に

愛読者のみなさんへ  
おいしいプレゼント

ヌーヴェレール

飲みやすさが新しい。新しい。9度のワイン「ヌーヴェレール」

キッコーマンが飲みあさしないフルーティな風味で、バランスよく、さわやかな酔い心地を約束するワインを発売中!

飲みやすさが新しい。買いやすさが新しい。扱いやすさが新しい。という3つの新しさという、口当たりも柔らかな「ヌーヴェレール」を赤白各1本合計2本を讀者6名様にプレゼントします。



■「ヌーヴェレール」ご希望の方は、住所・氏名・賞を入の上〒650神戸市中央区東町113-1大神戸ビル9F月刊神戸子「ヌーヴェレール」係までとしとお申し込みください。



二十周年を迎えた(ティファニー)は、今までよりもゆったりとしたスペースをとって木造りのテーブルと椅子に白亜の壁が、よりメキシカンの香りをただよわせている。おすすめのメニューはトルティヤ(100円)、バエリア(ソフト9



和気あいあいのスタッフ

# ■ニューフェイス PEARLS JEWELRY

BA R

## セレジエ

中央区北野町3-2-5 BKフ  
ラザ1F 電話 232-0048  
AM 11:00 ~ AM 2:00

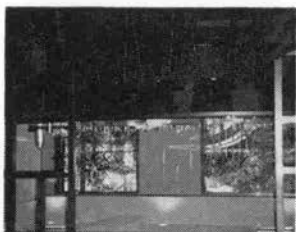
ハンター坂を登りつめた異人館倶楽部の右側、BKプラザ1Fにめざすパールズ・ジュエリー & BAR 「セレジエ」がある。まずゴールドとパールの眩しい光輝くショールームが、目に飛びこんでくる。その奥がブラック&レッドでトータルコーディネートされ、落ち

00円、ハード800円)、魚介類メニューもふえ、初めての方にはコース料理(5000円~8000円)を、ドリンク類はテキーラベースのマルガリタ、サライズ、ノンアルコールではNARANJAを一度試してみたいいかがでしょうか。

■中央区中山手通2-13 パール  
コーポラスビル1F 242-0043  
PM 5時~AM 1時

★カクテル・ランデブー  
北野のネオクラシカルな洋館・OCTOBER 14。ロブスター、ダンジュネスクラブなどの新鮮なシーフードを東西に広がるキラメク夜景と共に味わうロマンチックタイム。アフターデ

ついたムードを漂わせるスペースがあり、またカウンターの背後のガラス張からの自然光がより一層不思議な世界を醸し出す。この店の売り物は、やはりジュエリー・ネームのついたカクテルだ。



ムード漂うカウンター



カクテルな夜

イナーをバーカウンターで。時がたつにつれ、ダイナミックカラーが深まり、夜景が光を増して浮かび上がるように輝やく。こんな夜のお相手は「ブロンクス」のクローバー・クラブなどのソフト・カクテル。林檎ブランデー・カルパドスをベ

パール、ルビー、エメラルドといった、それぞれ本物のジュエリーが入り、彼女の心を引きつける絶好の演出効果になるのはうけあい。

また6月のパールフェアにちなんだ企画も盛り沢山、来店された女性客全員にパール缶をプレゼント、パースデイには、シャンパンと記念フォト、そしてオリジナルジュエリーを女性にプレゼント。その他レディスデイ(毎月曜)、レインデイト色んなデイサービスも楽しみで彼女と二人きりの夜を満喫されてみては

イスにした「OCTOBER 14」も優しさに満ちた夜を演出してくれる。

■中央区北野町2-18-2 AM 11:00 ~ PM 11:00 (ラストオーダー PM 9:00) 第3火曜休 電話 241-6113

お喋りが楽しいバーでリラックスして

中山手通2丁目の山手幹線沿いにちよつと面白いネーミングのビルが建っている。縦に細長い建物で名前



愉快なママの理羅さん

が、ほらふきビル。その6Fにドリンクインフオーメーションリラックスが5月10日オープンした。

和気あいあとした雰囲気と、美人ニューハーフのママ、理羅さんの愉しなお喋りが特徴のお店で、本当に飽きることがない。

客層も女子大生グループから会社の社長まで、ママの豊富な経験談と愉快なお喋りの内容がうかがえる一度は入ってみたいお店。

■中央区中山手通2-10-5  
ほらふきビル6F 10PM  
電話 252-0166 6月は年中無休



# ポケット ジャーナル



## ★「花の降る午後」クランク

イン記念パーティー開催  
神戸を舞台に繰り広げられる映画「花の降る午後」がいよいよクランクイン。これを記念して、5月16日ホテルゴーフリッツにおいて、クランクイン記念パーティーが開催された。

「花の」はフランス料理店を経営する未亡人と青年画家の恋を中心に、店の乗っ取りを計る悪女との対決を盛り込んで展開されるラブサスペンス。

パーティーには主演の古手川祐子さんをはじめ、高嶋政宏さん、大森監督、原作者の宮本輝さんなども盛をみせ、映画の雰囲気も姿



大森監督も全力投球

りあげた。

その中で青年画家を演じる高嶋さんは、「この映画で新しい自分を発見したいですね」と抱負をのべた。

★神戸市会百年の歩みがこの一冊に

市勢の発展と市民福祉の向上を願って、神戸港の築港から、教育、福祉、医療などの充実のため力を入れて来た神戸市会が今年百周年を迎え、その足跡を年表にまとめ、「明日の市政を展望するよすがになれば」との望いを込めて編集した「神戸市会百年」が完成。年表には貴重な写真も多数挿入されており、見るだけでも楽しいものになっている。

発行部数が少いために市販はされないが、市役所市政情報室、区役所、図書館市内各中学校、高校、大学などに置かれるので、閲覧も出来る、とのこと。お問い合わせは、神戸市役

所内の神戸市会事務局まで

## ★「闇の巨匠」ルドンの世界を心ゆくまで



近代絵画史上きわめて重要な位置を占める画家、オデロン・ルドンの作品を集めた「ルドン展」が兵庫県立近代美術館で開かれている。

一八四〇年、フランスの港町ボルドーで生まれたル



ドルイド教の女  
ルノワール印象主義に対する反

発として象徴主義と呼ばれ、特異な幻想的世界を展開した注目すべき巨匠。

今回はそうした画家特有の幻想的世界を「光と闇」の対立ないし共存としてとらえ油彩、水彩、木炭、パステル画その他の諸作品二百五十点を「怪物」「天使」「夢想」など二十二のテーマ別に陳列、ルドン芸術の魅力が堪能できるように構成されている。

成されている。

誕生日ありがとう運動



## 人の役割

人は誰でも一つの役割をもってこの世に生まれ、その役割をまっとうして世を去るといわれます。

三歳のころ高熱に見舞われた静子さんは中脳神経が冒され沈黙の寝たきりの状態になつてしまいました。お母さんは静子さんを背負い、病院や診療所を訪ねまわりましたが効果はありませんでした。三年間の暗黒の家庭。励まされたお母さんは華道を教えて生き甲斐を発見してから、家庭に時々笑いが戻るようになり、静子さんも応えて微笑するようになりまし

た。天使のように純粋な笑顔に燃れた人々は、何となく自分の心を反省するそうです。棚に木戸口が造られ、そこを入ると縁側に寝ている静子さんが見えます。「静ちゃん」と呼びかけると彼女はニッコリと笑い、その笑顔が人を元気づけるのです。評判になって多くの人が訪ねました。中学生や高校生が自発的にリヤカーに彼女を乗せて公園に行ったこともあります。

成人式を迎える彼女は近所の人の連のカンパで晴れ着を着せてもらいました。そしてみんなと一緒に撮った写真を残して三日後に、彼女は天国に還ったのです。

僅か二〇年の生涯でしたが、葬儀には四〇〇人以上も参列しました。欲望に振り回される現代社会に、神が遣わされた天使がもしれない静子さん。

誕生日ありがとう運動本部  
神戸市中央区御幸通八ー一  
神戸国際会館一階郵便局の隣  
電話〇七八二二二二二一四

「ルドン展」6月25日迄。

■観覧料一般一〇〇〇円、大学高校七〇〇円、中小生四〇〇円

兵庫県立近代美術館  
（078）801-1591  
10:00~17:00 月曜休館

★ヒットソングを神戸から

地もと神戸のコーラスグループ、ヒマナシ4の歌う「東門ブルース」の映像カラオケが完成し、その発表



田端理事長を囲んで月十二日、生田新道信用金庫本店8Fの「かんしんホール」にて開かれた。

「ヒマナシ4（フォー）」

は歯科医土居二郎さん、カメラ店主植原文三さん、公務員西垣道生さん、団体職員福田幸雄さんの四人で作る異色コーラスグループで、結成二十五周年を記念し、昨年二月「東門ブルース」でレコードデビュー。グループの後援会長で完成した映像カラオケにも友情出演している関西信用金庫理事長の田端基宏さんは「地元の発展のためにも、ぜひとも神戸を舞台にしたヒットソングを」と意気盛ん。出席者から大きな拍手をあびていた。

★鉄人28号よみがえる

エイトマン、スーパージエッターなどと並ぶ、昭和30年代のヒーロー「鉄人28号」が、ゼンマイ仕掛けのブリキのおもちゃとして、現代によみがえった。

ブリキ玩具は横浜や京都に博物館ができるほど、今や文化的価値を持ったものとして認められている。

またその言うなれば骨董的価値により、大変な高額で取引されている。

今回、大阪ブリキ玩具資料室では、原作者横山光輝氏の承諾を得て生産を開始し、25年前と同じ輝きを持つ「鉄人28号」が生まれた。

なお主な特徴は次のとおり  
●日本のブリキ玩具全盛期の技法を忠実にまもり作られた。  
●ゼンマイ仕掛けで歩行前進する。  
●横山光輝氏の描きおこし化粧箱  
●限定500個のみの販売  
●品切れ後のプレミアが期待できる  
●「鉄人28号クラブ」に入会できる  
●御希望の方は大阪玩具資料室 06 245-1441 まで



★日蘭修好三八〇周年記念

イネケ・カリス版画展  
4月28日から5月19日まで日本興業銀行ロビーにてオランダ在住の女流版画家イネケ・カリスさんのシ

ルクスクリーン展が開催された。同展は日蘭友好を願い、オランダ総領事館後援で行われたもので訪れた人々の目を楽しませた。



カーリスさん  
カーリスさんの作品は道路の標識、ベン、クリップなどを素材にし、ごく身近な物からその造形美を作家の目にとらえ、シルクスクリーンの色さまざまなインキによって素晴らしい色彩を加え、見事な芸術作品へと開花させている。

★おしやれに英会話



女性の間の英会話熱はあ  
いかわらずだが、何か実生活で役立つ  
セリグウッドに立つ  
ミコリ 楽し  
ながら、英会話を身につけたい貴女に朗報。

カナダでファッショ関係の仕事に就いていたコリングウッドさんが、このたび自宅で英語教室を開催することになった。ファッションの話題やマナー、エチケットのことなど、女性の身近な話題についてのおしやりを楽しみながら、生きた英会話が学べる。興味のある方は電話で左記まで  
06 261-1295 ミセスコリングウッド（12:00~17:00）

## 図書ガイド



ブス愚痴録  
田辺 聖子著

快車・聖子さんの最新刊。  
聖子さんは女性の味方かと思いきや、登場人物の口を借りて、とことん愚弄したりしていらっしやる。女性読者から圧倒的な支持を得ている方なのだが、特に表題作などは、読んでこちらがぶっ飛んでしまう凄まじさ。  
案外、そのあつからんとした文体がウケているのかも知れない。（文藝春秋社刊）  
1200円



金沢望郷歌  
五木 寛之著

北陸の都・金沢を舞台に、タウ誌をはじめ文化活動を続ける人たちの、まことに人間味あふれる物語。編集者や芸者、ラジオ局編集長等の人々が、あたかも金沢に息づいているかのような現実味をもって迫ってくる。  
本や雑誌の好きな人、関わった人にとっては、これはたええられない一冊である。（文藝春秋社刊）  
1200円



貼に憑かれて  
六十年  
前 寛著

待ちに待った貼の季節がやって来た。近畿の川は六月も半ばになるが、どこかしこも全面解凍。しかし、まだまだ水温も低く貼の成育もいまいち。おまけにすぐにも梅雨入りで釣りたくても釣れない日が続く。そんな釣りの心を慰めてくれるのがこの一冊。著者と貼との長い関わり、その蘊蓄を聞けば、また違った友釣りが見つけられそう。（辻学園出版事業部刊 1500円）



# ★地球人の贅沢

健康をコントロールし、

体を動かす愉しさ。6月10日、石屋川にグラランド・オ



EARTHLING

スクラ  
ットネ  
・フイ  
J&G  
する

のデザインをアメリカ人が担当。クラブスタッフにはアメリカ、オーストラリア、日本人を起用するなど地球サイズの展開。KOB Eならではのロケーションで実現した贅沢。肉体も精神もベストに。

■港区徳井町1丁目2-31  
☎(078) 811-7010

## ★エーゲ海そしてある人生

### ——新作ビデオ情報——

は自分自身のLIFEを快適にする素敵な贅沢が存在する。

大ヒット映画「危険な情事」の脚本を担当したジェームス・ディアダン脚本・監督による「バスカリの島」20世紀初頭、オスマントルコ帝国末期に、帝国よりエーゲ海のある島へスバイ

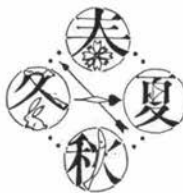
として派遣され、生活を送っている男バスカリ。ある日彼の前に怪しげな英国人が現われ、その男を調べていくうちに、大国間のかけ引きに振りまわされ、やがて悲しい結末が…。あくまでも美しいエーゲ海を前にして、彼の人生のむなしさが、いやがうえにも際立ってくる。



バスカリの島

「ガンジー」でアカデミー主演男優賞に輝いたベンキングスレーがさすがの演技。東芝映像ソフト㈱

## 計時花



### 「神戸まつり」考

久しぶりに快晴の「神戸まつり」となった。朝早くは泣き出しそうな曇空であった。が、本番のパレードは青空になった。

いろいろな趣向をこらした花車が続き、音楽が

フラワーロードに響きわたる。そして、ひとときわがえるのがサンバのリズムである。「やっぱり天気やと爽やかで気色がええわ。せやけどちよっと暑いわ」と汗に濡れながら激しいサンバのリズムに合せて踊るムレ、群。

の宣伝ベースの参加が増えたな。「企業参加で祭りが華やかになるのは賛成だが、あまり安易に参加して、雰囲気が悪くなるものかなわんな。など」現在の「神戸まつり」自身の洗い直しも必要だろう。

現在の「神戸まつり」には夜の行事がないことを、地元紙も取り上げていて。が、どのようにして実現していくのか、この辺でもう一度「振り出し」に戻して骨組みを再構築しては。

△Y△

## ●KOBE POST

★ホテルオークラ神戸(〒650兵庫  
県神戸市中央区波止場町二番一  
号・代表取締役社長長石邦雄)は、  
6月22日よりOPEN。開業前  
6月16・17日お披露目の宴が開か  
れます。☎078(33)0111  
(代)

★森真珠株式会社(森隆社長が、  
新社屋完成にともない移転されま  
した。新住所〒651神戸市中央区二  
宮町1丁目4ノ15 本社 ☎078  
(24)2125(代) 内販事業部  
☎078(22)6112(代) シ  
ールム ☎078(112)588  
1(代)

★あの子達(チンパンジー)の声  
が聴こえる動物園近くに住んで39  
年、あと1年を余して、女房の古  
里(西神)研究学園都市緑丘へ里  
帰りすることになりました。と亀  
井一成・泰恵子夫妻からの便り。  
★神戸新聞社会部の筆野拓郎さ  
んが5月8日で退職、55才の新ス  
タートです。〒651西宮市瀬瀬  
町青葉台54 ☎079797(84)006  
99

★6月20日21日、生田神社会館  
2Fロビーにおいて、望月美佐さ  
んが平成元年日本列島縦断「書  
の心を拓く」と題した展示会と21  
日6時から誕生パーティを4Fホ  
ールで開催会費は15、000円  
(トロピカルディナー)お土産美  
佐画面作品プログラム・沖繩訪  
問を前にして/笛・藤倉格路/舞  
・中村米子で動く書を。金沢東郷  
お座敷太鼓。ハワイの旅の報告な  
ど多彩。お申込みは望月美佐の会  
事務局 ☎078(51)7084

★有限会社山本ビル(代表取締役  
山本薫子)が、創立10周年を7月  
に迎え感謝披露宴を、7月4日  
(火)6時より神戸ポートピアホ  
テルで開催されます。

★大阪府立大学教授の小室豊允氏  
が4月1日より姫路独協大学経済  
学部情報学教授として就任され  
ました。〒670姫路市上野7丁目  
2番1号 ☎07992(23)2221  
1 FAX 07992(85)0352



# 心の風景

〈3〉

## 若返りダンス

高橋

孟ハマンガと文



熟年が集まって「イキイキ生きるにはどうすればよいか」というデイスカッションがあった。ある元気な熟年の方が「みんなダンスを習いましょう」という。私は「大いに結構」といったものの、さて、ダンスといっても爺さん婆さんが抱き合って踊ったところで、健康にはよろしかろうが、それだけでは物足りない気がした。やはり、イキイキするには、相手は若い人であって欲しいと思ったのである。

ダンスに限らず、ゲートボールにしても同じで、老人ばかりが群れていても古い雰囲気搔き混ぜているだけでイキイキした感じは出ない。出来れば若い人も参加してもらおう工夫がいる。

そのうち、福祉政策も様変わりして、全国にさががけ、神戸市あたりが、補助金を出して、熟年が若い人に接触出来る施策を考えてくれるかもしれない。たとえば、神戸市指定の「若返りスナック」があり、老人手帖を持っていけば三割引きで、カラオケからダンスサービスがある。そのかわり、高齢者も、極力若づくりに努力するエチケットがいる。老人手帖には、現在の貼付写真の他に、自分の若かりし日の写真を貼付して、ダンスのときはパートナーに、その写真の方を見て踊ってもらう気遣いを忘れないようにするのである。

全葬連認定「葬祭専門士」資格取得者  
株式会社 大谷 徳風 社  
代表取締役 大谷 晃 世

全国葬祭事業協同組合

神戸葬祭事業協同組合理事

神戸市規格葬儀取扱指定店理事

本社／神戸市長田区松野通1-11-12

☎078-6210089

鈴蘭台支店／☎078-1592154 485

■第18回ブルーメール賞受賞  
連載小説へ3V

# モルダウ川の ヤンゼー波

森 榮枝

画／石川晴久



ブラハからコノピシユチへの道は深い霧の中だった。地形的に、河川の集まる盆地だから、この辺りでは濃い朝霧はいつものことで、特に秋の季節は深くなるらしい。アウトバーンは十メートル先もよく見えないが、先行車も対向車もないから気持よくとばせる。パスは、大きな体をゆすって走る。ニシダが、

「そんなにとばして大丈夫？」

と心配顔をするが、これだけ空いているのだから対向車との正面衝突は考えられないし、万一先行車が見えればただちに徐行できるという自信があるからとばしているのだ。山道へかかり、カーブが続くのでスピードを落とす。ニシダはほっとした顔になる。山の上は寒い。

コノピシユチ城は、オーストリア皇太子フェルディナンドの城。マリア・テレサもよく訪れたという。

城砦ではなく居城であるから、華麗に、ぜいたくに造られている。

円形の塔と四角な居室の連なりをうまく配置した優美な外観、バロック風の天井画、ロココ風の室内調度、タペストリー、外で火を焚き室内には煙も臭いも入らず熱だけが伝えられるという美しい陶製のストーブ。大広間いっぱいに蒐集された膨大な量の武器は、ほとんどが実用品ではなく、人に見せるための美術品である。窓からは、孔雀の遊ぶバラ園のあちこちに建てられた数々の彫像が見える——はずだが、今日は霧で見えなくて残念。何より驚かされるのは「王の獲物」だった。

フェルディナンドは殊の他狩が好きで、生涯に三十万匹の鳥獣を殺し、その一つ一つに獲った場所と日付のプレートをつけ、城のいたる所に飾った。

例えば、長い廊下いっぱいには掛けられた何百頭分の鹿の角、天井からびっしり吊された何千羽の鳥の剥製、広い踊り場に立ち並ぶクマの剥製、階段の壁に折り重なって張りつけられた野牛の皮、ガラスケースに入れられたおびただしい牙や爪のコレクション、その他、リス、兎、狼、狐、など、壮観というよりは気持が悪い。

生き物を殺すことがそんなに楽しかったのか。この王は日本へも行ったことがあって、その時も日本の獣を狩りたいと望んだが断わられたという。

王の居間にも一匹のクマがいたが、これは王に狩られなかった唯一の例外。庭に大きなクマ舎があって、この城ではいつもそこに伝統として一頭のクマが飼われている。今も一頭いるが、居間の剝製は、今、生きて飼われているクマの母親だそう。

城館の下の森を通って、バスターミナルまで下る。プナやケヤキの原木が霧に包まれ、道もすぐそこまでしか見えない。歩くにつれて、その先に何が現れるかと期待しながら下る。山裾を巡りながらゆるい傾斜でつけられた森の中の散歩道には大きなドングリが散らばり、どこからか水が引かれていて、小道添いに流れていたり、横切って橋の下の小きな滝となったりして変化を楽しませてくれる。

下草の茂った所には、リスや兎がかくれているそう。ここなら鹿だっているかもしれない。フェルディナンドも、自分の庭の獣は殺さなかったであろう。

日本人の女が、そばを歩きながら、ハインツの方を見て話しかける。ニシダが通訳してくれる。

「赤ずきんちゃんの話って、ドイツの子どもたちは、皆知っているんですか？ あれ、日本でも有名です。私も小さい時、聞きました。でも、その中に出てくる『森』のイメージが、もひとつ分かったんです。きっと、こんな所だったんでしょね」

「残念ながら、ここはよく手入れされた城の庭です。北ドイツの自然の森はこんなものではありません。もっと暗くて淋しい所です」

「そうですね、でも、この、日本とは種類の違う樹木を見ただけでも、その森が想像しやすくなりました」

コノピシユチからカールシユティン城へ向かう道を行っていると、霧が動きはじめ、みるまにすうすうと晴れ

上がった。静かな夜明けの薄明から急に昼間の活動的な世界に入った気分だ。山小屋風レストランで昼食をとる。城は、ここでも山の上にあるが、こちらは砦として造られたものだから足元は岩山だ。道も急坂で、あえぎ登る感じとなる。

ハインツは以前に一度登ったことがあるので、今日は下で待つことにした。バスターミナルは城の真下にあるから、日本人たちが登って行った道を逆の方向へ少し歩くと、城の全体が遠望できる。

ボヘミア王が13世紀に建てた城で、コノピシユチ城のような派手さはないが、灰色の切妻形の屋根を持つ建物群、矢狭間の並ぶ城壁、見張塔、飲料水を確保するためにうねうねと谷へ向かってのびた土壁、その先端にある泉を守る砦など、実質的、実践的に均整のとれた建造物で、又違った美しさがある。

城は、外から見れば美しく、王子や姫君の住居として人民たちの憧れであったが、内には常に血なまぐさい歴史を秘めているものだ。ボヘミアには美しい城や砦が多く、今は観光ルートになっているが、よく聞けば、この石畳の汚染は大臣が殺された時の血の痕だとか、この石段は王が首を打たれた時、剣の勢い余って欠けたとか、そんな言い伝えも珍しくない。

コノピシユチのフェルディナンドは、一応戦乱の治まった世に、権勢ゆるぎないハプスブルグ家の皇太子として生まれ、戦争に明け暮れた先祖の王たちから受け継いだ荒々しい血のたぎりをおさえかねて、あわれなケモノたちに向けたのかもしれない。三十万匹のケモノは、食肉として実用にもなったのだろうか。

くさむらの中の石に腰をおろして、城の眺めと、暖かくなってきた日射しを楽しむ。

(この城もカールだな)

自然にわが家のカールへと思いがつながる。

出発前の、言い出しにくい時に、バーバラがあえて口にしたのは、きっと何か急ぐ理由があったのだ。



例えば、学園祭の舞台で演じるので早く練習をしたいとか――。

しかし、いくら音楽祭でも学園でドラムスをやらせるだろうか。この頃のことだからやらせるかもしれない。それなら学園にもあるだろうから、それを使って練習すればいい。

少しでうまくなりたいと思えば家にも練習用がほしいだろう。

ライバルがいるのかな。

家で練習すると近所迷惑にはならないか。

カールの部屋は車の通る道路に面しているから、それほど心配はいらないだろう。家族は少しがまんしなくてはなるまいが。

ドラムセットといえればかなり高価なものだろう。わが家にはぜいたく品ではないか。

しかし払えないことはない。無理せず払えるのなら、ぜいたく品とはいえないのではないか。

せっかく買ったものでもすぐに飽きて放っておくのではないだろうか。

いや、カールはそんな子じゃない。もし最終的には飽きるとしても、しばらくの間でも熱中してやるなら、ぼけーっとテレビばかり見ているよりいいのではないか。

いろいろ考えていると、とかく「買ってやろうか」という考えに傾いていく。

「ほんと？　買ってくれるの？」

自分に似た茶色の瞳を輝かせるカールの顔が目には浮かぶ。

今夜は、待ちかねた「西側」へ出られる。とにかくバールバラともう一度よく相談して……。

日本人たちが城見物を終えて下りて来た。

カールシュティン城の下のバスターミナルを出ると、ボヘミアの黒い森を抜け、高原地帯のなだらかな丘を幾つも越え、夕日に向かってバスを走らせる。

国境に着いたのは予定より早い五時過ぎだったのだが

すぐ前にポーランドの車が停まっていた、厳しいチェックを受けていた。全員降ろされ、床下の荷物庫は勿論、個人の手荷物まで全部開けて調べられている。

それに比べると日本人の調べはごく簡単だった。パスポートを集め、事務所で捺印して、返す時に一人ずつ、写真と顔を見比べただけだ。

「東側」は出国や亡命に神経をとがらせているが「西側」は入って来る者をさほど気にしていない。チェコスロバキアからの出国には手間どったが、西ドイツへの入国は、ポーランド人もあまり問題はなかったようだ。

何の荷か、貨物を満載した大型トラックが、何十台もすれちがいで、「東」へ入って行った。

国境からは、ゆるい坂道を谷へ向かってかけ下る。山の陰へ入って行くのでどんどん日が暮れる。

ドナウ河の支流に出会う。この辺りは、ヨーロッパの河川の南流と北流の分水嶺だという。この辺りで降る雨は一キロぐらいの差で北は北海へ、南は地中海へ注ぐわけだ。あれ、ドナウは黒海だったかな。

真っ暗になって、やっとバイデンの町に入った。この町は初めてだし、思いがけず雨も降り出したが、もうドイツ語が通じるから迷子にもならず済む。

大通りのショーウィンドウに明かるく灯がともり商品が山積みにしてあるのを見て、日本人たちは、喜びとも安堵ともされない歓声を上げる。たった五日間ほど統制経済の国を旅行しただけなのに、そんなに心細かったのだろうか。

ホテルに着くと、まずフロントから業務連絡をする。

「ハインツか、無事共産圏から出てきたか。悪いけどな引き続きヤーパンの面倒見てくれないか？」

「どこだ？」

「それがイタリー周遊なんだ、それも君がフランクフルトに帰る翌日からだ」

「というとアルプス越えに一日はかかるから家に寄る間も無いわけだが、まあいいよ」

「そうか、助かる。特別手当出すように言っとくから。実はアルベルトに言ってみたんだが、同時に入っていたアメ公の方がいいと言って決めてしまったんだ。あいつ住宅ローンがあるし、二人目が生まれるから、チップが欲しいんだろう」

「そういえばヤーバンは運転手にチップをくれたりしないからな」

「だから特別手当出すって」

「分かった」

次にバーバラに電話する。

「ハロー、ああ、ハインツ、元気だった？」

「有難う、そちらは？」

「有難う、元気、あのね、ルドルフがね」

「えっ？」

「ルドルフよ」

「ルドルフ？」

いきなり何を言ってるんだ、人の気も知らないで……

「そうよ、足にケガして……、ひどいケガなの、さっきホーガス先生のところへ連れて行って縫ってもらったの、七針もよ」

猫の小さな足を七針も縫うのは、それは大ケガには違いないが……。

出がけの喧嘩のことは忘れたのか、多分忘れたふりをしてるのだろう。自分の方があやまるべきだとは思っていないとするとちよつといまいましいが、まあ今度の場合仕方があるまい。

「どうしたんだ？」

「どうしたのか分からないから心配してるの。ホーガス先生はね、刃物のケガだとおっしゃるの」

「刃物？」

「ええ、猫どうしの喧嘩ではないみたいだって」

「どういうことだ？」

「前にね西の角のシュメツケビアさんが、猫を家から出さないでくれ、って言ったことがあるんだけど……」

やれやれ、浮世のいざこざにはできればかわりたくないものだが……。

「しかし、彼が？」

「まさか、とも思うんだけど」

「カールはどうしてる？」

「勉強してるわ」

「ドラムが欲しいから見せかけてるわけか」

「さあ」

「これからロマンチック街道とライン下りにつき合って火曜日に帰る予定だったんだが、たった今、業務連絡で次の仕事が入ってしまった。ドラムのことは、帰ってからもう一度よく相談して……、と思っていたんだが、又十日ほど帰りがのびた。どうだ？ あれは急ぐのか？」

「大丈夫、もうあきらめたみたいよ」

「あきらめた？」

「ええ、だってハインツ、あなた、あの子にはぜいたくだと思っただけでしょう？ だからそう言って聞かせたの」なんだ、解決してしまったのか。カールのやつ、えらく簡単に諦めたものだ。ねばりのない息子がはがゆい。反対したのは自分だが、自分の居ない間に解決したのがくやしいような、買ってやれないのが淋しいような……。撫然とした気持で皆のいる食堂へ行く。

ホテル・スタッドクルーグの食堂は、スキー小屋風の造りであった。丸木の窓枠、木造りのテーブルと椅子、大きなストーブのまわりに金網を張って、毛糸の手袋やスキー帽が引っかけたてある。

「ハインツ、どこへ行ってたんですか？」

ニシダが立ち上がったて空いている席を覚えてくれる。

「今夜は自由主義国へ帰れたお祝いに乾杯するんです、あなたもどうぞ」

グラスを持たされ、ビールを注がれた。本当は、ハインツは、見かけによらず、又ドイツ人らしくもなく、飲めないのだが、今夜は少し飲もう。明日の運転にさしかえないほどに。  
(おわり)